

カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）

本学の教育理念、建学の精神、教育目標を実現するために、次のことを意図し、カリキュラムを編成する。

1) 生命・医療倫理の原則に基づき職務を遂行できる高度専門職業人の養成

—生命倫理の教育を理念として根底に置く。

(1) 生命・医療倫理の教育には、基盤教育科目に「生命倫理」「看護倫理」を配し、大学院での高度専門職業人育成の根幹の一つとして医療倫理原理の修得を位置づけ、「看護学研究法」の科目では、医療倫理の研究を通して具体的に検討できるようにしている。

(2) 専門教育には、健康・療養支援看護学領域、MCH(周産期・母子)看護学領域、統合看護学領域があり、それぞれの領域の基礎を説明する科目として「ヘルスプロモーション看護学特論」「小児・子育て支援看護学特論」「療養支援慢性看護学特論」「クリティカルケア看護学特論」「老年看護学特論」「精神看護学特論」「MCH(周産期・母子)看護学特論」などの科目を配している。これらの科目は、専門教育においても一貫して生命・医療倫理の原則を引き継いだ構成となっている。

2) 保健・医療・福祉現場の看護の質向上に直接的に寄与できる高度専門職業人の養成

—医療等現場の質向上に寄与できる実践力を重視する。

(1) 高度専門職業人の養成には、教育・研究者をめざす修士論文コースと高度看護実践者をめざす専門看護師コースがある。共通の基盤となる科目には、「看護理論」「看護管理論」「看護政策論」「看護教育論」などがあり、専門看護師コースの基盤科目としてはさらに「臨床病態生理学」

「臨床薬理学」「ライフスパンフィジカルアセスメント」を配している。

(2) 専門看護師コースのうち慢性専門看護師コースには、長期療養を特徴とする慢性期疾患患者のケアに必要な支援技術と医療・地域連携に関する理論を学ぶ「療養支援慢性看護学援助特論」、専門看護師支援技術と連携医療を演習する科目として「療養支援慢性看護学演習 I A」、医療的処置・薬物療法への対処技術を修得できる「療養支援慢性看護学演習 I B」などがある。また「療養支援慢性看護学実習 I、II、III」のフィールドワーク科目では、専門看護師技術や連携医療、薬物療法他治療的介入の実際を学ぶことができる。講義、演習、実習といった学習形式を重層的に経ることで、知識と実践応用力を連結させることを意図したものにしている。

(3) 専門看護師コースのうち母性専門看護師コースには、周産期における母子と家族についての理論について学ぶ「ウィメンズヘルス看護学特論」「MCH 看護学特論 I」、周産期医療におけるエビデンス獲得やアセスメントに基づく看護ケアを探求する演習科目の「MCH 看護学特論 II」「PIC(周産期集中ケア)特論 I」「PIC(周産期集中ケア)特論 II」、さらにそれらの基礎知識を実践に応用しながら高度看護実践を探究する、「MCH 看護学特論 III」「PIC(周産期集中ケア)特論 III」「PIC(周産期集中ケア)特論 II」が続く構成としている。フィールドワーク科目として専門看護師機能や質保証に資する高度な看護ケア実践力を深めるための実習科目「MCH 看護学実習 I、II、III」を配し、講義、演習、実習の重層的構造により、知識と実践の効果的連結を意図したものにしている。

3) 看護の実践・教育・研究を通して、わが国におけるROI理論を含めた看護理論の基盤形成と展開に寄与する高度専門職業人の養成

—わが国におけるROI理論を含めた看護理論の基盤形成と展開を図る。

(1) 看護知識やケア技術の検証によるエビデンスの集積に寄与できる能力を獲得するための科目として、ロイ看護モデルを含む看護の理論を学ぶ科目「看護理論」と「EBNP 特論」「調査研究処理法」を有し、知識と実践スキルにおける課題と看護の役割について教育的に探求する科目「看護教育論」を置いている。

(2) 看護の高度専門職業人には、活動の場がどこであれ実践・教育・研究の能力が求められる。それぞれの領域で、以下のような修士論文コースを備えている。

①健康・療養支援看護学領域では、「ヘルスプロモーション看護学演習」「小児・子育て支援看護学演習」「クリティカルケア看護学演習」「療養支援慢性看護学演習」「老人看護学演習」「精神看護学演習」など、それぞれ健康維持・疾病予防、急性重症期の集中管理、慢性疾患の長期的管理、介護予防・認知症予防、精神疾患の管理と家族支援について探求する科目があり、未対応の課題や実践上の問題などを「特別研究」のなかで研究に起こし、修士論文においてその研究のプロセスと結論を表現することができる。

②MCH(周産期・母子)看護学領域では、「ウイメンズヘルス看護学特論」「MCH 看護学特論」「PIC(周産期集中ケア)特論」など、女性の生涯にわたる健康、周産期における母子とその家族の健康とその逸脱を含むリプロダクティブヘルスについて探求する科目と、それに基づいて見いだされた課題を実践に活かすためのエビデンスを構築する修士論文作成のプロセスにおいて探究する。

③統合看護学領域では、「看護政策・管理学特論」「リーダーシップ・コンサルテーション論」(2016年度入学生は「看護政策・管理コンサルテーション論」「リーダーシップ教育カリキュラム論」)「国際看護学特論」などの科目により、医療供給制度、効果的なリーダー・管理者、看護による国際協力について探求し、本領域の課題を実践への活用を含み修士論文完成のプロセスにおいて探求する。

4) 国際的視野のもとに看護の実践・教育・研究を学際的に遂行できる高度専門職業人の養成

—国際性・学際性を重視した教育を行う。

(1) 国際的視野に立った教育としては、「看護理論」は米国看護理論分析家のジャクリーン・フォー

セット博士（2017年度までは米国看護理論家のシスターカリスト・ロイ博士）による授業、科目

「異文化理解と国際医療協力論」では国際医療協力の交渉や実務の豊富な経験を有する者に

よる授業を配し、国際医療協力を国際的・学際的に探求することができる。

(2) 統合看護学領域には「国際看護学フィールドスタディ」を配しており、国際看護学を実地での

修学を通して深めることができ、実地フィールドで見いだした課題を研究として修士論文完成のプロ

セスにおいて探求する。